

いもこじ

第60号【年3回発行】

令和7年8月1日

日置地区社会教育振興会

〈事務局・編集〉鹿児島教育事務所



第60号 「いもこじ」の精神をこれからも

誌面をリニューアル!

日置地区社会教育振興会の社会教育情報誌「いもこじ」は、今回で第60号を迎えることとなりました。平成18年7月に第1号が発刊されてからちょうど20年経過しました。これを機に誌面をリニューアルしました。

第18号には「バケツなどに芋を入れてかき混ぜると、芋同士が擦れあってきれいになるように、人と人が触れあってお互いを切磋琢磨していくこと」という趣旨の内容が書かれてありました。「芋洗い」の習慣も古い話になってきましたが、その精神は今後も引き継いでいきたいものです。※平成28年度(第33号)から三島村、十島村の情報も掲載。



いもこじ第1号の一部

日置地区社会教育振興会 総会 が開催される

～人づくり つながりづくり ちいきづくり～

5月19日(月)、いちき串木野市役所市来庁舎において、日置地区内の社会教育関係団体長や教育行政担当者及び福祉・防犯関係等の委員31名(委任状含む)が出席して、本総会が開催されました。総会では中屋会長の挨拶の後、協議が行われました。

協議では、令和6年度事業報告や決算、令和7年度活動方針案、事業計画案、予算案、新役員案等が審議され、承認されました。本地区の生涯学習の推進、社会教育の振興、そして、つながりづくり、地域づくりを通して、地域の活性化に努めていくことになりました。



中屋会長より委嘱状の交付(代表)

令和7年度新役員 (敬称略)

会長	中屋 謙治 (いちき串木野市長)
副会長	坂口 崇一郎 (鹿児島教育事務所長)
副会長	中木屋 豊 (鹿児島地区社会教育委員連絡協議会長)
監事	濱走 拓夫 (いちき串木野市PTA連絡協議会長)
監事	相良 一洋 (いちき串木野市教育長)
監事	有村 恵 (日置市立妙円寺小学校校長)



社会教育の振興のために(協議の様子)

月	日	曜	令和7年度 地区社会教育振興会関係行事
6	13	金	鹿児島地区社会教育委員・社会教育担当者等研修会 《いちき串木野市》
	17	火	日置地区地域女性団体連絡協議会研修会 《日置市》
7	5	土	日置地区PTA正副会長等研修会(兼鹿児島地区人権教育ブロック別指導者研修会) 《日置市》
	15	火	鹿児島地域文化財保護審議会委員及び文化財行政担当者等研修会 《鹿児島市》
8	29	金	日置地区ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び組織・教育・食料・環境学習大会 《日置市》
10	21	火	日置地区公民館経営研究会 《いちき串木野市》
11	18	火	日置地区文化財担当者等研修会 《場所未定》
	29	土	鹿児島地区子ども会大会、指導者・育成者連絡会 《いちき串木野市》
12	6	土	県PTA活動研究委嘱公開 《いちき串木野市》
1	24	土	日置地区生涯学習推進大会 《日置市》

おみこしを引っ張るわたしは、はじけんばかりの満面の笑みである。集落の食事会では、みんなで美味しそうに笑顔を交えながら食べている。十五夜の相撲大会では、緊張した面持ちながら、手にした景品をぎゅっと握りしめている。これら全ての場面を今でも鮮明に覚えている。これは、まだ物にあふれているとはいえない生活だったと記憶しているが、写真から「幸福感」があふれている。同時に、写真も「キープ」。

次の任地へ同行決定である。

縁あって、4月から社会教育の世界に身を置くことになった。誰かの「幸福」のために、社会教育の力もつ力を信じて、あのときのお返しの意味を込め、少しでもお役に立てればと思う。



度ルーティンとなつていく。

「何が入っちゃったの？」

今度こそは思い切りよく減らそうと、固い決意をもって、荷物を前にずんと座り込む。ここまでの流れもお約束だ。

長く付き添った思い出の品々のいくつかは別れを告げた。あの服とも、あの旅の土産とも。後ろ髪を引かれながら、もう一つの袋にそっと移した。

そうこうするうちに、アルバムに手が伸びた。昭和48年に生まれたわたしの幼少期・少年時代を、セピア色の写真が蘇らせてくれる。



日和下駄

社会教育の力を信じて
日置市教育委員会
参事兼社会教育主事 諏訪 賢志

教員という職業柄、短い周期で引っ越しを迎える。その都度、在任期間、結局一度も開けることがなかったボールを開く作業が毎

日置地区地域女性団体連絡協議会研修会

6月17日(火)、日置市中央公民館で日置地区地域女性団体連絡協議会研修会を開催しました。日置市、いちき串木野市から約80名が参加しました。

農業愛にあふれた講話

講師の窪山富士男さんは始良市出身で、農林水産省九州農政局参事官(鹿児島県担当)です。

これまでの豊富な実務経験を背景に、「これからは、環境にやさしい農業と地産地消が大切!」の演題で、昨今のコメ問題、地産地消の重要性、有機農業の現状と展望、世界の農産物市況等について分かりやすく説明していただきました。「地産地消」と「有機農業」の両立は地域経済の安定、消費者の安心、地域ブランドの形成に有効であることを強く訴えられました。



▲講師の窪山富士男さん



▲講話に聴き入る参加者

また、農業者の気持ちを知るために実際に畑をつくり、野菜を育てた体験談では、曲がった「きゅうり」の

地産地消と有機農業の推進を!

原因、「アブラムシ」を天敵で防ぐ方法、猿に玉ねぎを食われた鳥獣被害など、野菜を育てて分かったことを語られました。

聞く人を魅了し、農業愛にあふれた話でした。

盛り上がったグループ協議

7, 8名ずつ班に分かれ、自産自消を高めていける取組についてグループ協議を行いました。各班では「野菜作りは最初はプランターで始め、楽しんでみる」



▲活発な意見交換

「家庭菜園では苦労もあるが楽しい」「自分で作っているので残さず、大事に食べている」等、食の問題は身近な話題だけにとても話が盛り上がっていました。

最後に窪山さんから、野菜作りで困ったら、経験者に聞いたり、スマホに写真を撮って店の人に相談したりしてみるとよいです、とアドバイスされました。

参加者からの意見や感想等

- ❖ 野菜を作る楽しみ、大変さを知りました。
- ❖ 自然の恵みと農家の方に感謝です。
- ❖ 自分の食生活を見直すきっかけになりました。
- ❖ グループでの話し合いがとてもよかったです。

地域と共に未来を!

鹿児島地区社会教育委員及び社会教育担当者等研修会

6月13日(金)、いちき串木野市いちき庁舎において、本研修会が開催されました。日置市、いちき串木野市、三島村、十島村の社会教育委員をはじめとする約30名が参加し、生涯学習推進における社会教育委員、社会教育担当者の役割について理解を深めました。

これからの社会教育委員の役割とは

県教育庁社会教育課主任社会教育主事兼社会教育係長の小園正臣さんを講師に迎え、「社会教育委員の役割」と題した講義が行われました。

講師からは、社会教育委員制度は、住民参加型の行政の仕組みを表していることを踏まえ、住民主体の活動や地域の様々な教育資源をつなぎネットワーク化する取組の必要性、さらには行政・学校・地域の連携の重要性を実践事例を交えながら語られました。改めて社会教育委員としてこれから何ができるかを考えるよい機会になりました。



▲講師の小園正臣さん

研究協議 ~ 地域をつなぐ社会教育委員として ~

後半は、3~4名の少人数グループで、自分たちの地域の課題、その課題解決に向けた社会教育委員としての役割について考えを出し合い、他地域の現状や

取組について意見交流を行いました。参加者からは「他地区の取組を知るよい機会になった」「今後の活動に役立てたい」等、前向きな感想が多く聞かれました。



▲研修会の様子

社会教育委員は、地域住民の学びを支える大切な存在です。今後も、地域と連携しながら、誰もが学び続けられる生涯学習社会の実現に向けて取り組んでいきましょう。



▲熱心な研究協議

講師からのメッセージ

皆様の「学ぶ」「伝える」「つなぐ・広げる」活動が、これからの地域づくり・人づくりにさらにつながるように願っています。

日置地区PTA正副会長等研修会

兼 人権教育ブロック別指導者研修会

多様性を尊重し合う社会を！

7月5日（土）、日置市中央公民館で本研修会を開催し、日置市、いちき串木野市から約150名の参加がありました。今年度は鹿兒島地区人権教育ブロック別指導者研修会を兼ねて行われ、講師に児島希望さんを迎え、「多様な性を知る LGBTQとは？ ～多様性を尊重する社会を目指して～」と題して講演がありました。

児島希望さんは、性の多様性に関する知識を広め、理解を深めることで、誰もが安心して自分らしく生きられる社会づくりを目指して、地域の学校や自治体などで多くの講演活動をされています。

児島さんは、ご自身が女性の体に生まれ、性別適合手術やホルモン治療を通じて、現在は戸籍を変更し、男性として生きる選択をしてきた経験を赤裸々に語られました。



▲講師の児島希望さん

あなたらしさって何だろう？

LGBTは個性の一つであり、日本でのLGBT人口は10人に1人存在しているといわれ、LGBTsが当たり前[※]の個性として存在し、LGBTsを特別扱いしない社会をつくる必要があると話されました。また、性別や価値観にとらわれず、互いの多様性を認め合う姿勢が大切である、自分を大事にすることは他者を大事にすることにつながっていくと話され、自分自身のあり方、生き方を改めて問い直す契機になりました。

※LGBTs・LGBTの人たち(複数形のS)



▲開会行事の様子



▲熱心に耳を傾ける参加者

参加者からは、心が大きく揺り動かされた様子が感想から伝わってきます。

- ❖ カミングアウトした時のお母様の言葉、「私の子供に変わりはない」、感動しました。
- ❖ 多様な性、多様な個性が当たり前[※]に受け入れられる社会になってほしいと思いました。
- ❖ とても勉強になりました。参加してよかったです。
- ❖ 親子でもコミュニケーションをしっかりとることの大切さを改めて感じました。
- ❖ LGBTQという言葉は知っていても、内容は知りませんでした。特別な事ではないんですね。

本研修で高まった人権課題への意識が、各家庭やPTA関係の学習に広がり、多くの方々の人権意識の高揚につながることを願っています。



わが町から～日置市教育委員会

未来へ跳ねる！「せっぺとべ」で輝く子供たちと郷土の心

日置市日吉町に伝わるお田植え祭り「せっぺとべ」が6月1日に行われました。白装束のニオ（ニセ）たちが田んぼで泥を跳ね上げる光景が有名ですが、この祭りでは地域の子供たちも大切な役割を担っています。

子供たちは泥の中に入ることはなく、笹踊り、鎌踊り、棒踊り、虚無僧踊りといった奉納踊りの「踊り子」として祭りを盛り上げます。5月初旬頃から各地域で練習が始まり、子供たちは連日、熱心に練習を重ねてきました。祭りの準備は地域ぐるみで行われ、踊りの歌い手や指導者のみならず、草履などの道具作りや魔除けの「しべ」（松を紙状にすいたもの）作りには様々な人が関わっており、地域の方々とともに祭りをつくり上げることで、郷土への愛着や連帯感を深めていく貴重な機会となっています。

今年も晴天の下で開催された「せっぺとべ」では、自信に満ちた表情で踊る子供たちと、それを温かく見守る多くの大人たちの姿がありました。



▲山田鎌踊り



▲扇尾棒踊り「六人絡み」

市民に愛される 日置市ジュニア・オーケストラ

日置市ジュニア・オーケストラは、小学生から大人まで、幅広い年齢層が参加できる市民参加型のジュニア・オーケストラです。平成5年に結成され、今年で設立33年を迎えました。現在、20名の指導者と一般及び児童・生徒の団員107名で活動しています。練習日は通常、毎週土曜日、市中央公民館で午後6時から2時間半、それ以外の日は、所属する部活や団体で演奏技術の腕を磨いています。

子供たちの情操教育だけでなく、地域の文化祭や教育委員会主催行事へ参加するなど、日置市全体の文化振興にも貢献しています。

毎年開催される定期演奏会や文化祭でのステージは、市民にとっても大きな楽しみの一つです。

令和7年12月21日（日）に、日置市伊集院文化会館で第33回定期演奏会を予定しています。ぜひ、たくさんの皆さんの御来場をお待ちしております。



▲練習風景



▲定期演奏会

鹿児島大学教育学部の協力のもとに、平成16年から始めている青松塾は、今年で21年目を迎えました。本年度は市制施行20周年を記念し、ワクワク体験事業として三部門の青松塾を計画しました。

部	対 象	内 容
小学生の部	小学3～6年生	自学学習や、登山，SUP，お菓子作りや創作活動
英語の部	小学5・6年生	英語をより身近に感じられるように、本年度新設
中学生の部	中 学 生	自学学習を中心に、自然体験も交えて活動

5月24日(土)の入塾式では、応募があった24名が集まり、相良教育長は「入塾しようと思ったきっかけはそれぞれだと思いますが、皆さんの目的や希望が叶う青松塾の活動ができると思います。自分なりの目標と『志』をしっかりと立て、周りの仲間や大学生の皆さんと楽しく活動してください」とあいさつをされました。

入塾式では青松五訓を全員で唱和しました。この青松五訓は、郷中教育の原点を作った新納忠元の教えて、二才咄格式定目（に



せばなしかくしきじょうもく)から引用したもので、人のため、ふるさとのために努力して欲しいという願いからつくられたものです。活動の初めと終わりには、受講生は青松五訓を必ず唱和します。

青松五訓

- 親や兄弟を大切にできる人になります。
- 地域のために役に立つ人になります。
- 年下や弱い者に対して心優しい人になります。
- どんな困難にもくじけない強い人になります。
- あいさつがはっきりできる礼儀正しい人になります。



小学生の部では、6月7日(土)に百人一首に挑戦しました。串木野小学校4年生楠生ひかりさんは、「2回連続で負けたけど、最後13対4で勝てたのでとてもうれしかったです。がんばったところは、お手つきをしなかったことと怒らなかったことです」と感想を述べていました。

鹿大教育学部の学生は17名が登録。学生にとっては、子供たちに触れ合える貴重な機会です。子供たちの自主学習を支援したり、一緒に自然体験をしたり、英語の学習に参加したりと、将来教壇に立つことを夢見て、子供たちとの接し方を学んでいます。

わが町から ~ 三島村教育委員会

三島村の義務教育学校全4校の子供たち51名（4～9年生）が大阪万博に出演しました。子供たちが日頃から熱心に取り組んでいる西アフリカの伝統打楽器ジャンベの演奏を「ギニアナショナルデー」に披露して欲しいという要請を受けてこの夢のような企画が実現したのです。三島村とジャンベとの出会いは、世界的ジャンベ奏者ママディ・ケイタさんとの交流から始まりました。あれから30年、アフリカ・ギニア共和国との交流は途切れることなく続き、



「みしまっ子ジャンベツアー 2025 in 大阪」(6/8~6/13)

太い絆に育っています。子供たちは日頃から授業や部活動などでジャンベの練習に励み、その実力は広く知れ渡り、今では「ジャンベの島」と呼ばれるほど名実ともに三島村の代名詞となっています。

当日は、アフリカ・ギニア共和国の首相や大使、アフリカの方々など大勢の観客が見守る中で伝統衣装を着用し、素晴らしい演奏を披露しました。観客は立ち上がり踊り出すなど盛り上がり、最後はスタンディングオベーションで盛大な拍手。会場は感動の渦に包まれました。

わが町から ～十島村教育委員会

十島村には、公立図書館がありません。各島には2つの専用の木箱に入った30冊程度の本が、コミュニティセンターなどに置かれ、1年をかけて全ての島を「セブンアイランド移動図書館」として巡回しています。また、各学園の先生方の協力により「セブンアイランド通信」を発行して、各島に巡回してくる本の紹介をしています。

近年では、県立図書館の移動図書も含めて各島には100冊を超える本が提供されています。幼児から高齢者までの各世代が気軽に本に触れる機会となっています。昨年度より、貸し出しに二次元コードを使い教育DXやバリアフリー図書の巡回をはじめ、時代に対応した移動図書館となるように努めています。



島を旅する セブンアイランド移動図書館



編集後記

今夏は、異例の早い梅雨明けて猛暑が長期戦になりそうです。健康管理には十分気を付けたいものです。60号を迎えました。創刊時の思いを大切にして、社会教育情報の発信を進めていきます。(事務局 田中)